

2021 年度 FM 卓越科目レポート

# FM 医療概論

3 期生 A グループ

### ①授業前の知識

(A) 医学部の時に医学教育は受けたものの、自分の専門分野以外の知識は忘れつつあった。また、医学以外の経済や工学の分野は興味があるものの専門的な講義を受けたことはなかった。

(B) 文系の身として、医療系の知識についてはほとんど備えていなかったため、授業の内容についていけるかが、不安だった。一方、講義のテーマの中に経済学や心理学の内容のものも含まれていたため、興味があった。

(C) 私は現在ヒトの神経疾患についての基礎研究を行っており、生物学の基礎知識はあるが、医療系の知識はなく、講義を受けたのは初めてだった。経済学や教育学などは基礎知識もなかった。

### ②授業の目的（「医療概論」のシラバスより）

本授業は、様々な学問分野（理工学、経済学、人間学、教育学など）の知見や手法を医学・医療と融合させるための、基本的な医学知識とその実践を理解することを目的としている。「医療概論」を学ぶことで、生体の仕組みを知り、実際の臨床での病気や治療についての理解が進むことになる。さらに、現代医療の問題点と未来への展望について、講師のみならず各受講生の多様な視点を交えた考え方にも触れることになる。

### ③到達目的（「医療概論」のシラバスより）

「医療概論」では、必修講義に値する医学の根底と最先端医療を学ぶことに取り組む。さらに、医学的知識のみならず、医療の実践についての想像力、洞察力、基礎医学と文系理系の枠にとらわれない横断的思考力、複雑化するグローバル社会での応用力を学ぶことにつながる。

### ④授業内容（「医療概論」のシラバスより）

第 1 回 画像解剖学 (A, B, C が受講)

第 2 回 人体の構造とはたらき (受講者なし)

第 3 回 遺伝学とゲノム医療への展開 (A, B, C が受講)

第 4 回 未来型医療想像に携わるみなさんへ可能性は∞ (無限大) (A, B, C が受講)

第 5 回 痛み・脳・心 (A, C が受講)

第 6 回 他者の心の理解・医療とコミュニケーション (A, B, C が受講)

第 7 回 生活習慣病におけるゲノムサイエンス (A, B, C が受講)

第 8 回 代謝疾患治療の最前線 (A が受講)

第 9 回 経済学的な視点から見る人口の高齢化と医療費 (A, B, C が受講)

第 10 回 口から見た地域と社会の健康のための処方箋 (A が受講)

第 11 回 生活を支えるリハビリテーション医工学 (A が受講)

第 12 回 医療を支える医工学 (A, B, C が受講)

### ⑤研究や仕事などに活かせる点

(A) 学部時代の教育に加え、研究という観点の講義が多かった。また、他学部と協力して新しい視点から、医学を見つめなおすよききっかけとなった。自分の研究がどのようなものかだけでなく、社会で今必要とされている技術がどのようなものかという視点が重要であると感じた。第 8 回の講義が、脳との関連もあり興味深い内容であった。

(B) 研究関連の講義が多かった点から、研究者の方が未来の医療や福祉に対して、どのようなニーズに着目し、どのような解決案を考えるのか、という世の中に役立つ研究を行うための視点や観点を大いに学ばせていただいた。また、経済学や心理学の領域から、医療について考える講義では、文系の身から医療や福祉に対するアプローチを考える上で、非常に参考になった。

(C) 私は将来、医療に関係ある職業に就きたいと考えているものの、具体的な職種に関しては決めかねているため、さまざまな視点で医療に関わっている方々の話を聞いたのは、キャリア形成において貴重な体験になった。特に、経済という視点から医療を捉える視点について学んだことがなかったため、第 9 回の講義はとても興味深かった。

### ⑥影響を受けたこと

(A) 自分の興味のある分野を研究していくという視点と、社会に必要とされている研究がどのようなものかという視点の両方が必要だと思った。一方で片桐先生の、基本的に自分の出したデータだけは正しいものとして扱い、そこから研究を広げていくという話が、今後研究を行っていくにあたって重要であると感じた。

(B) 特に興味深かった講義として「他者の心の理解・医療とコミュニケーション」の講義が挙げられる。医療というのは、何か処置を施す作業ではなく、医療者と患者の心と心が繋がるコミュニケーションの一つであるということを感じ、医療者が患者の心を理解しやすくするコミュニケーションツールの開発等が、医療分野で進むことも、未来型医療にとって必要だと思った。

(C) 生物学の分野では、疾患を生物の原理に迫るための手がかりとして捉える節があり、日々の研究において、その疾患を患っている患者の存在を意識する機会は少ない。今回この講義を通して、どうやって疾患を治療するか、患者の負担を軽減するか、という視点を改めて学び、元々人の役に立つ研究がしたいと思って疾患に関する研究を始めた私にとって、研究のモチベーションを回復させる機会となった。

### ⑦来年度以降の改善点

(A) 医学概論という授業であるためある程度は仕方がないが、経済や工学など医学以外の分野の講義が多いとより興味がひかれると感じた。また、講義だけでなく第11回のようにグループワークがあると、他の学生の考え方も学習できて面白いと思った。

(B) 経済学研究科や文学研究科の先生の講義を入れていただいていたが、もう少し文系分野の先生の授業を増やしていただけると、より興味深いカリキュラムになると感じた。

(C) 講義によっては、生物学や医療系の知識がないと、かなり理解が難しい内容となっていた。そういった知識がない学生でも講義が理解できるよう、基礎的な知識について教えもらえるような講義が第1回として開催されると、より理解がしやすいと感じた。

### ⑧授業の限界

(A) COVID-19 のパンデミック下であり、対面でのグループワークが難しかった点。WEB でも小グループに分けてディスカッションができればよいと思った。

(B) 文系の身からすると、基礎的な理系の知識がないゆえ、理解できない部分がどうしても出てきてしまった。事前に基礎的な知識を共有していただけたら、文系でも分かりやすい説明を増やしていただけたらすると、より有意義なカリキュラムになると感じた。

(C) 医学系以外の分野の学生にとっては、この講義だけでは医学系の基本的な知識を得ることは難しいと感じる。もう少し体系的な授業構成だと学びやすいと思った。

### ⑨まとめ

医者、文系学生、理系学生という、それぞれの視点で講義を受講したが、各々にとって良い学びとなった講義だった。自分の分野以外の専門家の講義を受けたり、自分の専分野の講義を改めて見つめ直したり、今後未来型医療について考える上で、糧となる経験を得ることができた。